

第1回文化財保護審議会 議事要旨

日時：平成24年5月29日（火） 午後2時～午後4時15分

場所：小牧市青年の家 1階 講義室

出席者：池田委員、入谷委員、江尻委員、木村委員、小林委員、曾我委員、田中委員、多田委員、波多野委員、藤岡委員

事務局）舟橋次長、後藤課長、仲根補佐、長谷川係長、坪井主査

傍聴人：なし

内容

1 新委員紹介

木村委員（安藤委員と交代）

2 教育部次長あいさつ

本日の会議への出席、日頃の文化財保護事業への支援に対するお礼。

小牧山城は来年築城450年となる。歴史館周辺の発掘調査が進み、石垣やその前面の柱穴、2段の石垣の間の平坦面に敷かれていた玉砂利、「佐久間」と墨書された石垣石材などが見つかっており、これらの歴史的価値を市内外に情報発信することで、小牧を知ってもらう機会になればと思う。

本日は、市指定文化財候補物件の審議など皆様の忌憚ない意見をいただき、本市文化財保護行政の推進をしていきたい。

3 会長あいさつ

小牧山が美しく大きく見える季節となった。『偽書武功夜話の検証』という本を読み、歴史は見方によって違うと感じた。総合的に見ていくことを勉強させられた。

この会には鋭い意見をお持ちの先生方がたくさんみえるので、効果的にうまく進むように今年もよろしくお願いします。

4 報告

（1）平成23年度文化財保護事業について

【資料1】により事務局から説明。

説明についての質問等

委員：補助金額はいくら払っているか。

事務局：野口・大草棒の手保存会は年間5万円、小牧山車保存会は年間50万円、五本棒

オマント奉納保存会は年間5万円。

委員：マメナシ自生地は毎年消毒しないと虫の被害を受けてしまう。また、もぐら退治が必要である。コモウセンゴケ群落では、イシモチソウが環境の変化でなくなってしまった。うまくやってなんとか戻せないものか。ハッチョウトンボもまた飛ぶようになるかもしれない。小牧では、街側の湿性地はここだけである。

委員：発掘調査を実施しているが、新聞、広報を利用して市民向けに結果報告してほしい。説明板の設置は一気ににはできないと思うが、最近は史跡など関心が高まっているので、予算が続く限り続けてほしい。

5 議題

(1) 平成24年度文化財保護事業計画について

【資料2】により事務局から説明

説明についての質問等

委員：高根遺跡購入はどれぐらいの範囲を購入する予定か。

事務局：高根遺跡を含めて前の道路までの土地と遺跡の周囲を管理用車両が入れる範囲を予定している。

委員：高根遺跡もわかりやすい説明板があるといい。

事務局：指定当初の調査しかされていないので、用地購入後再調査を行い、その結果でどのように見せるかを検討する。

委員：清流亭、西町の稲荷堂、常懷荘、小牧高校のその後はどうか。

事務局：清流亭は今のところ話は進んでいない。今年2月に剪定した部分は花が咲いたが、庭の中の剪定していない部分は花はついていない。常懷荘は所有者への登録文化財の説明は行っているが、所有者が今後どのような位置付けで管理していくかがはっきり決まっていなかったため、今後の活用方法が決まればまた市と相談をしてください、と話してある。塚原邸も登録にメリットが特段ないので、早く登録したいというような考えはない。稲荷堂は入口に借家があり、そこの収益で管理している事情があり、そのあたりが解決しないと手がだせない。小牧高校は県はまったくその気がない。

委員：小牧山の遊歩道に花木が植えられてしまう。栽培種であり、自然と調和せず、自然破壊にあたる。その点は注意してほしい。西側の堀から離れて矢竹の群落のそばにある野生種の大木の桜を切らないようにしてほしい。山城には矢竹、茶、ミズキがあるが、小牧にはミズキはない。矢竹も少なくなってきた。

委員：私たちが資料を収集して小牧の文化財に不可欠なものを作ったら、どこかに挟んでいただくか、特別な予算を組んでもらって出版してもらえるか。たとえば、以前の南山大学の学長が田県神社の民俗的な行事について論文（英文）を書いて世界に発信した。その原文、それを元小学校の先生が翻訳した文ももっている。英文、翻訳、解説、さらに隣の

姫宮や三河の豊年のなまつりの石仏などでまとめられる。また、全国的に活躍した小牧の作詞家である穂積久に関する資料もあるが発表の場がない。検討してほしい。

委員：小牧叢書は元々そこからスタートしている。小牧に関する著名な人に原稿を書いてもらって出版し、市の財産を増やすということであったが、それらの人がいなくなってしまったので、資料研究員会が叢書と文化財を交互に出したという経緯がある。やれる文化財のネタがあれば、叢書のスタートした精神を取り入れて意図的にやってほしい。なんでもいいという訳にはいかないなので、内容は精査する必要がある。

（２）平成２４年度文化財保護審議会 視察・調査計画について

現地調査は１１月９日（金）に実施

調査先について

委員：『西行堂集』という本が小牧で出版されている。玉林寺・本光寺の住職、尾張藩の内藤東甫が西行堂を作ろうということで運動をやった。そのときに林羅山の直系の子孫が文章を書き、内藤東甫が絵を書き、布毛という玉林寺の住職、臥雲が原稿を書き、京都の公家から西行桜の押し花を記念に贈られ、堂に掲げる「西行堂」という額を書いている。また、横井也有からのお祝い、尾張藩書物奉行の松平君山の漢文も届き、著名な人から寄付金が集った。市橋さんが書いた『西行法師木造流転録』に写真で紹介されている。内藤東甫の絵、公家が描いた西行の像、『西行堂集』本そのもの（１７００年代に小牧で出版されたものになる）、その時の木版、それらが本光寺に残っているのではないかな。それだけでも民俗文化財として指定してよいのではないかな。実見して価値を確認したい。

本光寺を中心に市内西側のコースを検討してほしい。

先進地視察 １１月１８～１９日とするが、再度検討する。

視察先は、川越・八王子、熱海・沼津、堺・和歌山各方面を事務局から提案するが決まらず、後日会長、事務局で検討することとなる。

（３）市指定文化財候補物件について

事務局：久保一色土雛保存会から土人形制作の型について指定調書が提出され、【資料５】により概要を説明。

委員：起源は京都の伏見稲荷で、その製法が幕末頃全国へ広まっていった。末社が３００社ぐらいあり、その関係者等が京都へお参り（伏見講）にいき、広まったのではないかな。伏見稲荷の土人形の系統が全国に見られる。このあたりでは犬山、名古屋。仙台の堤人形、佐渡の八幡人形もその系統である。土人形の型として文化財指定されているのは私がかぎりこの２件だけ。仙田さんの作品は全国に散らばっており、結構高い評価をうけている。豊橋の美術館では仙田親子の名で図版で紹介されている。元々のかたわらでつくったものだが、技能、作品は評価されている。保存会の展示は今年度で１０回目でひとくぎり

を迎える。保存収集展示を務めてきているが、今後何かの形で努力して保存できる体制にしていかなないと散逸してしまう。

委員の意見等

指定の方向で反対意見はないが、実見していない委員もいるので、実見して審議する必要がある。

恵那の資料館で犬山型と足助型の土人形が紹介されており、犬山型は槌型と記述されている。土か槌か、どちらがよいのか確認が必要ではないか。